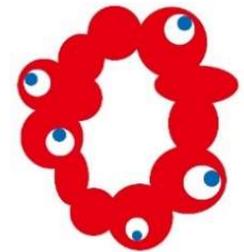


2025大阪・関西万博に 関する最新動向について

りそなアジア・オセアニア財団 第38回セミナー

(公社) 2025年日本国際博覧会協会 森 清
2021年2月19日



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025

国際博覧会（万博）とは①



世界中の人々が参加する国家プロジェクト 〔人類共通の課題を解決する場〕

《20世紀まで》

国威発揚や殖産興業
(産業見本市的) が中心

ロンドン万国博覧会 (1851)

※世界初の万博

パリ万国博覧会 (1867)

※日本から初出展

日本万国博覧会 (1970)

※大阪で日本初開催

沖縄海洋博 (1975)

大阪園芸博 (1990) など

総
会
決
議
B
I
E

1994年

「人類共通の
課題の解決策
を提示」

《21世紀から》

地球的課題と人類社会の持
続的な発展がテーマの中心に

愛・地球博 (2005年)

上海国際博覧会 (2010年)

ミラノ国際博覧会 (2015年)

**ドバイ万博
(2021年予定)
など**



ミラノ国際博覧会日本館

国際博覧会（万博）とは②



国際博覧会条約に基づく2種類の国際博覧会

登録博覧会

【大規模博覧会】

- ・5年に1回開催
- ・期間は6か月以内
- ・面積要件なし



<国内開催実績> 旧一般博

- ・大阪万博（1970）
- ・愛知万博（2005）

認定博覧会

【小規模博覧会】

- ・2回の登録博の間に1回開催
- ・期間は3か月以内
- ・25ha以内



<国内開催実績> 旧特別博

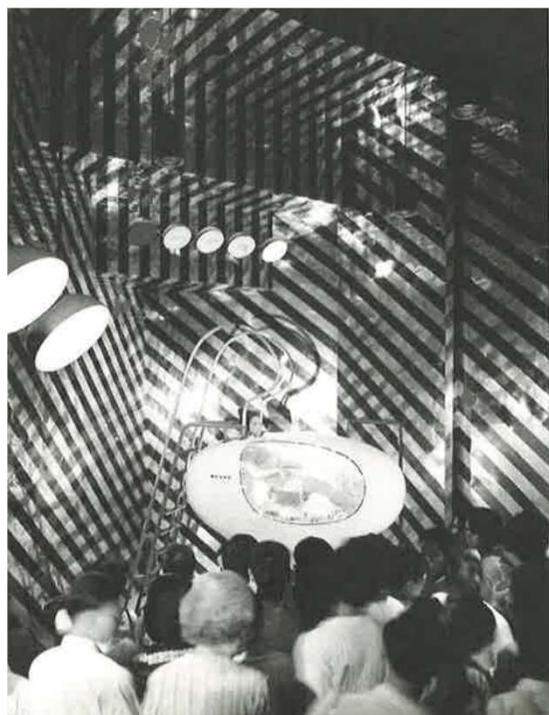
- ・沖縄国際海洋博覧会（1975）
- ・国際科学技術博覧（1985）
- ・国際花と緑の博覧会（1990）

2025年に日本が開催するのは大規模な「登録博覧会」

70年万博がきっかけで生まれたもの、広がったもの



■ ウルトラスニック・バス (人間洗濯機)



■ ファーストフード ケンタッキーフライドチキン (日本初上陸)



■ ワイヤレステレホン (携帯無線電話機)



■ 動く歩道 (万博を契機に全国的に認知)



■ 電気自動車 (国内初の試み)



(出典：「EXPO'70パビリオン大阪万博公式メモリアルガイド」)

【その他】ファミリーレストラン、缶コーヒー、フランスパン、ブルガリアヨーグルト、空気膜構造、電動自転車、テレビ電話、民間警備会社、カプセルホテル、左側通行、地域冷房システム、メタボリズム、ピクトグラム (サイン計画) など

大阪・関西万博のテーマ・コンセプト



テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
サブテーマ	Saving Lives (いのちを救う) Empowering Lives (いのちに力を与える) Connecting Lives (いのちをつなぐ)
コンセプト	People's Living Lab (未来社会の実験場)
会場	夢洲 (大阪市此花区)
開催期間	2025年4月13日 (日) – 10月13日 (月)
想定入場者数	約2,800万人

テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」



一人ひとりが自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できるようにするとともに、こうした生き方を支える持続可能な社会を、世界が共創（Co-Creation）していくことを推進。

いのち、生きる、生き抜く



写真:グロイセHPより



「いのち」の誕生から38億年

万博 = 「SDGs + beyond」 達成への飛躍の機会



- 2025年は、SDGsの目標年である2030年の5年前
- SDGs達成に向けた取組を加速させる絶好の機会
- 2030年のSDGs達成にとどまらず、+ beyond(2030年より先) に向けた目標が示されることが期待される。

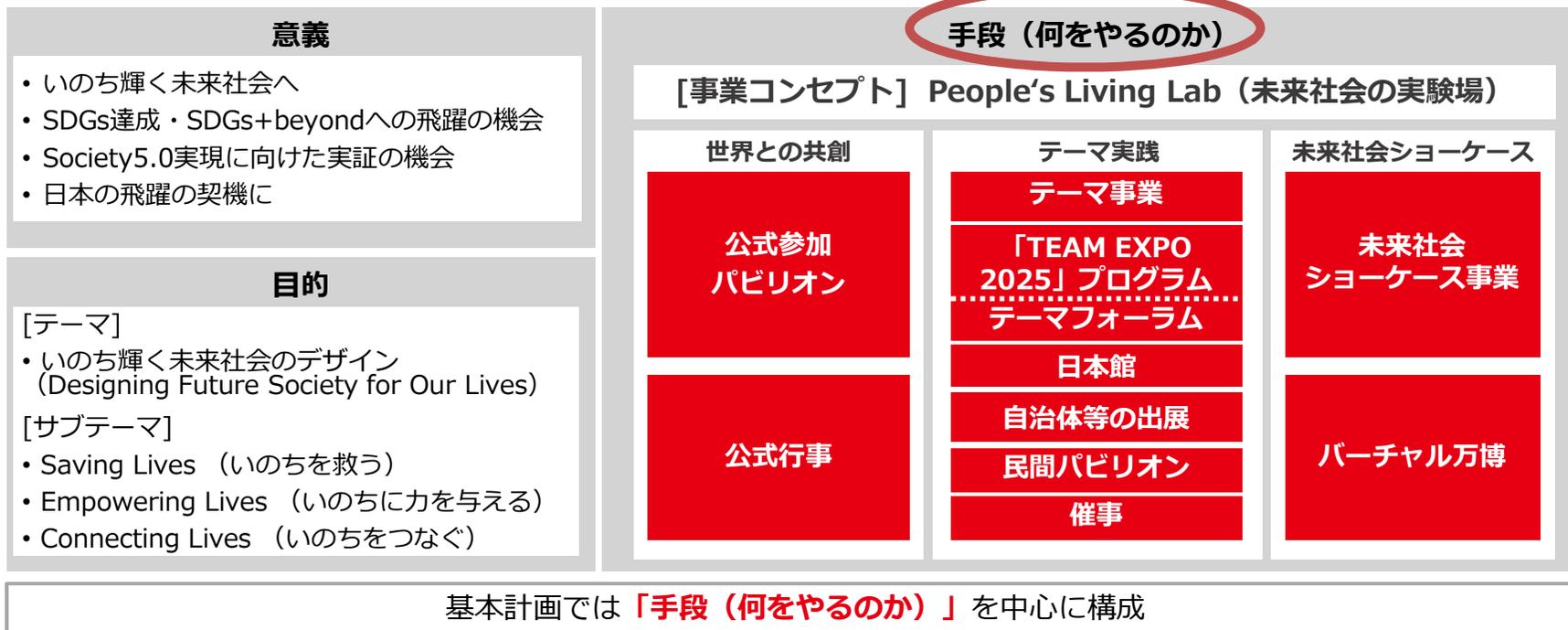
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



テーマの実現に向けて



万博の目的であるテーマの実現に向けて、事業のガイドラインであるPeople's Living Lab（未来社会の実験場）というコンセプトのもと、「世界との共創」「テーマ実践」「未来社会ショーケース」の3つを実施する。



(公社) 2025年日本国際博覧会協会



▶役員 (2021年1月15日時点/敬称略)

会長 (代表理事)	中西 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会会長
事務総長 (代表理事)	石毛 博行	前独立行政法人日本貿易振興機構理事長
副会長 (理事)	松本 正義	公益社団法人関西経済連合会会長
	尾崎 裕	関西商工会議所連合会会長、大阪商工会議所会頭
	深野 弘行	一般社団法人関西経済同友会代表幹事
	塚本 能交	京都商工会議所会頭
	冢次 恒	神戸商工会議所会頭
	三村 明夫	日本商工会議所会頭
	櫻田 謙悟	公益社団法人経済同友会代表幹事
	吉村 洋文	大阪府知事
	松井 一郎	大阪市長
	仁坂 吉伸	関西広域連合長
理事	國部 毅	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会財務委員会委員長
	寺田 千代乃	アートコーポレーション株式会社名誉会長
	高橋 政代	株式会社ビジョンケア 代表取締役社長
	池坊 専好	華道家元池坊 次期家元、一般財団法人池坊華道会副理事長
副事務総長 (理事)	森 清	前近畿経済産業局長
	竹内 廣行	前大阪府副知事
	櫛 真夏	前公益財団法人関西経済連合会常務理事

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～



2025年に開催される国際博覧会（大阪・関西万博）の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（令和2年12月21日 閣議決定）

「1.はじめに （3）大阪・関西万博の意義」 から抜粋

～ 略 ～

日本は、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち **2050年カーボンニュートラル**、**脱炭素社会の実現**を目指すとともに、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を踏まえ海洋プラスチックごみ対策を国際社会とともに推進することとしている。また、AI や IoT、ロボット、ビッグデータをはじめとするデジタル技術を活用して様々な社会的課題の解決と経済発展を両立させる、**持続可能でインクルーシブな「Society5.0」の実現**に向けて取組を進めている。

これらの取組を加速するために 2025年日本国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）の機会を活用するとともに、大阪・関西万博を契機に、日本は、「課題解決先進国」として、**人間一人一人がそれぞれの可能性を最大限発揮できる持続可能な社会を、国際社会と共に創る**ことを推し進める。

万博会場（夢洲） 航空写真



夢洲地区全体図



大阪・関西万博の5つの特徴



- 1 海と空を感じられる会場
- 2 世界中の「いのち輝く未来」が集う万博
- 3 未来の技術と社会システムが見える万博
- 4 本格的なエンターテインメントを楽しめる万博
- 5 快適、安全安心、持続可能性に取り組む万博



特徴 1 海と空を感じられる会場



大阪・関西万博の会場は、四方を海に囲まれたロケーションを活かし、世界とつながる「海」と「空」が印象強く感じられるデザインとする。円環状の主動線を設け、主動線につながるように離散的にパビリオンや広場を配置することで、誘致の時から「非中心・離散」の理念を踏襲しつつ「つながり」を重ね合わせた「多様でありながら、ひとつ」を象徴する会場を創出する。



会場デザイン① ～3つのエリア～

万博会場はパビリオンワールド、グリーンワールド、ウォーターワールドの3つのエリアで構成する。



グリーンワールド

- 会場の西側の海に面した緑地エリア。
- 屋外イベント広場や交通ターミナル、エントランス広場等、大人数が滞留することのできる開けた空間とする。

パビリオンワールド

- パビリオン等の施設が集まるにぎわいのエリア。主動線としてリング状のメインストリートと離散的に大小の広場を設け、ここからすべてのパビリオンにアクセスできる。
- メインストリートの上部には大屋根（リング）を設置。
- メインストリートから離れた位置に樹木を配した広場（静けさの森）を作り、これにつながるようテーマ館が配置される。

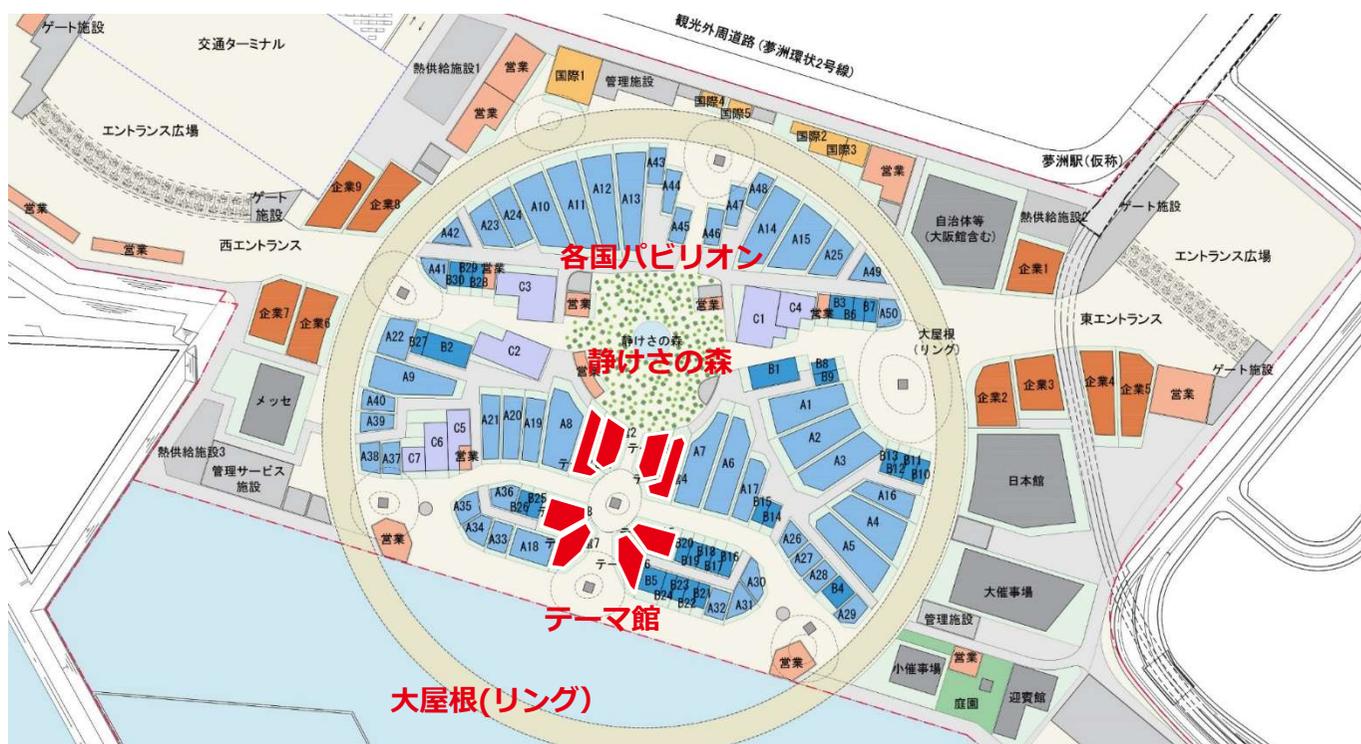
ウォーターワールド

- 水景を活用した憩いのエリア。水辺に面して飲食施設を配置するとともに、水上イベントの舞台としても活用。

会場デザイン② ～各国パビリオン・テーマ館～



各国パビリオンは（A 1～A 50まで）全て大屋根の下の『主動線』に面している。
テーマ展示のパビリオンは、南側の水際から中央の「静けさの森」を結ぶラインの両側に向かい合って配置される。「いのち」をめぐる8つのテーマ展示が、それぞれ独立しながらも連携し、共鳴し合って大きなストーリーを描くことができるように、隣接した配置とする。

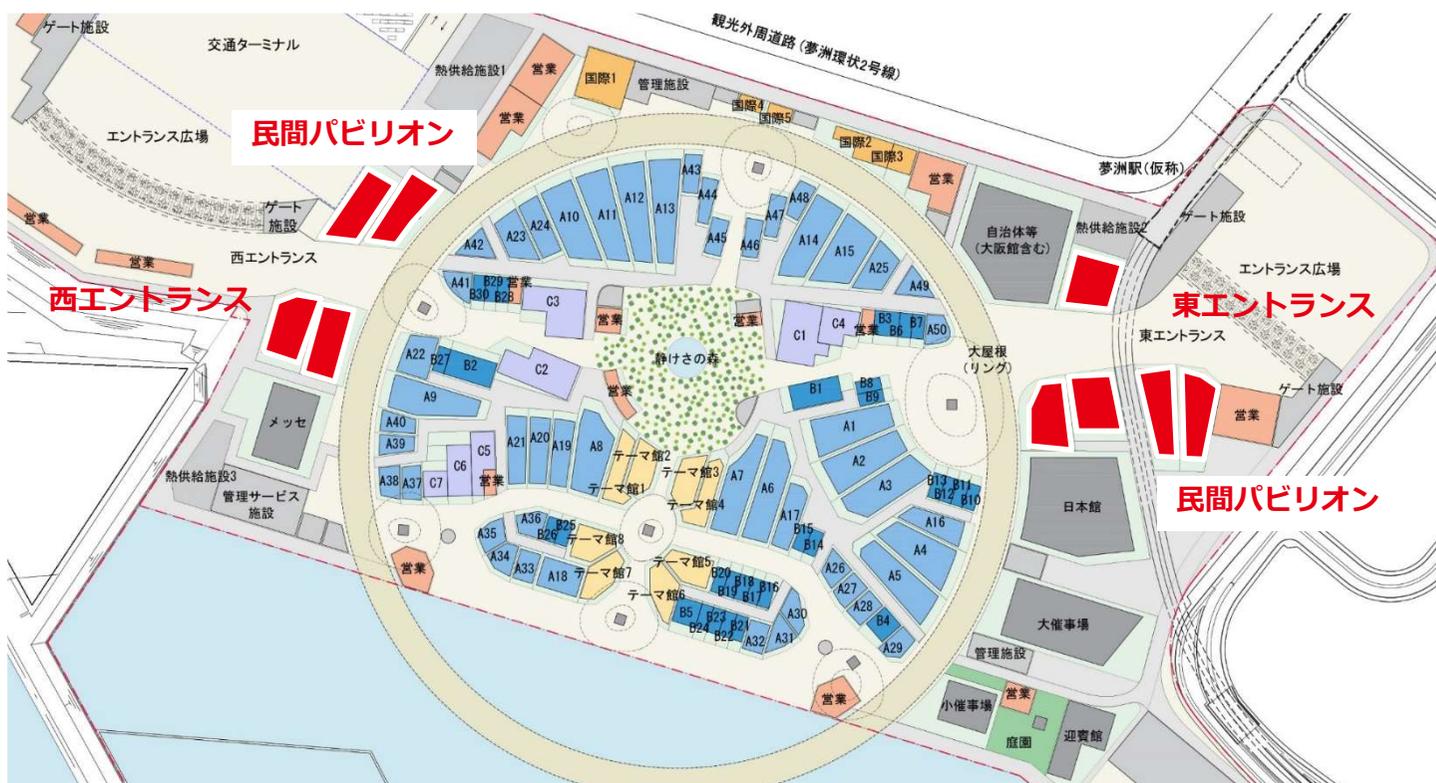


会場デザイン③ ～民間パビリオン、VIP対応～



民間パビリオンは、東と西のエントランス付近に配置する。

民間パビリオンもテーマの実現に向けて共に取り組むパートナーとして位置づけ、多彩な企業による未来社会のデザインを行う。



会場デザイン⑤ ～会場内移動（外周トラムなど）～



会場内での来場者の移動については、徒歩を主な手段として想定するが、高齢者、障がい者、子連れの家族等、様々な来場者が快適に会場内を移動できるように、また先進的なモビリティを体験する機会を得られるよう、多様なモビリティを導入する。



公式参加パビリオン



世界各国の公式参加者（参加国や国際機関）は、それぞれの立場からSDGs達成に向けた優れた取り組みを持ち寄り、会場全体でSDGsが達成された未来社会の姿を描く。

サブテーマ 一つ以上を選択	公式参加パビリオンのテーマ展開のトピック例		SDGs 17のゴール 一つ以上に取り組む
	個人の実践、自分自身の意識改革、啓発による気づき	コミュニティ、企業、政府、国、社会等による取組	
Saving Lives (いのちを救う)	生活の中の健康、健康寿命の延伸、心（精神）の健康、季節と衣食住、食と生活等	ライフサイエンス、労働環境の改善、貧困問題の解決、児童死亡率の低減等	
Empowering Lives (いのちに力を与える)	自己実現、ファッション、笑い、観光、文化、芸術、スポーツ、学び等	遠隔教育、ライフ・ワークスタイル、産業高度化、エンジェル投資等	
Connecting Lives (いのちをつなぐ)	デジタル活用、地球環境を意識した行動、気候変動への適応等	オンラインプラットフォーム、クラウド・ファンディング等	

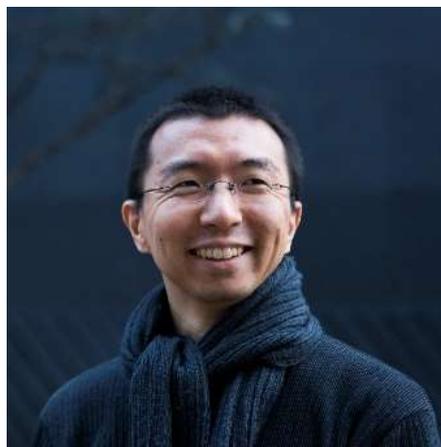
150の国及び25の国際機関の参加を目指す

会場デザイン・会場運営プロデューサー



会場デザインプロデューサー

藤本 壮介
(建築家)



©David Vintiner

会場運営プロデューサー

石川 勝
(プランナー、プロデューサー)



※敬称略

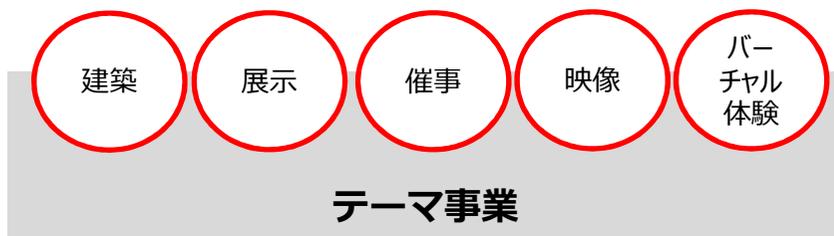
特徴2 世界中の「いのち輝く未来」が集う万博



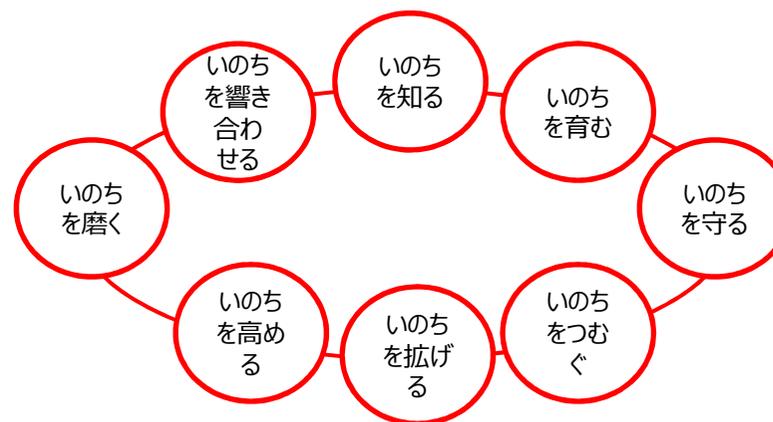
大阪・関西万博では、150の国と25の国際機関をはじめ、企業やNGO/NPO、市民団体等が、世界中から「いのち輝く未来社会」への取り組みを持ち寄り、SDGsの達成とその先の未来を描き出していく。そのための具体的な取り組みとして、各界のトップランナー8人が自ら創り上げるテーマ事業や、会期前から会期後までを通して行うベストプラクティスの共創事業「TEAM EXPO 2025」プログラムなどを実施する。

テーマ事業の基本方針

多彩な手法を組み合わせたテーマ表現



独立と連携の両立



テーマ事業を担う8名のテーマ・プロデューサー①



「いのちを知る」

福岡 伸一
生物学者、青山学院大学教授

- 生命系全体の中にある私たちのいのちの在り方を確認する。



「いのちを育む」

河森 正治
アニメーション監督、
メカニックデザイナー

- 宇宙・海洋・大地に宿るあらゆるいのちのつながりを感じ、共に守り育てる。



「いのちを守る」

河瀬 直美
映画監督

- 危機に瀕し、人類は「分断」を経験する。「わたし」の中の「あなた」を認めるいとなみの行方に、多様ないのちが、それぞれに、護られてゆく未来を描く。



「いのちをつむぐ」

小山 薫堂
放送作家、脚本家

- 自然と文化、人と人とを紡ぐ「食べる」という行為の価値を考え、日本の食文化の根幹にある「いただきます」という精神を発信する。

※敬称略

テーマ事業を担う8名のテーマ・プロデューサー②



「いのちを拡げる」

石黒 浩

大阪大学教授、
ATR石黒特別研究所客員所長

- 新たな科学技術で人や生物の機能や能力を拡張し、いのちを広げる可能性を探求する。



「いのちを高める」

中島 さち子

音楽家、数学研究者、STEAM教育家

- 遊びや学び、スポーツや芸術を通して、生きる喜びや楽しさを感じ、ともにいのちを高めていく共創の場を創出する。



「いのちを磨く」

落合 陽一

メディアアーティスト

- 自然と人工物、フィジカルとバーチャルの融和により、自然と調和する芸術の形を追求し、新たな未来の輝きを求める。



「いのちを響き合わせる」

宮田 裕章

慶応義塾大学教授

- 個性あるいのちといのちを響き合わせ、「共鳴するいのち」を共に体験する中で、一人ひとりが輝くことのできる世界の模式図を描く。

※敬称略

SDGs達成に貢献する「共創」の万博に向けて



人類共通の課題解決に向けた大きなムーブメントを起こす
SDGs共創プロジェクト **“TEAM EXPO 2025”**を立ち上げ

2025年
大阪・関西
万博へ

開催前から、社会課題に取り組む
大学、自治体、NPO、個人、企業等による
組織を越えた「共創」を促進

地域の魅力・取組
を世界へ発信

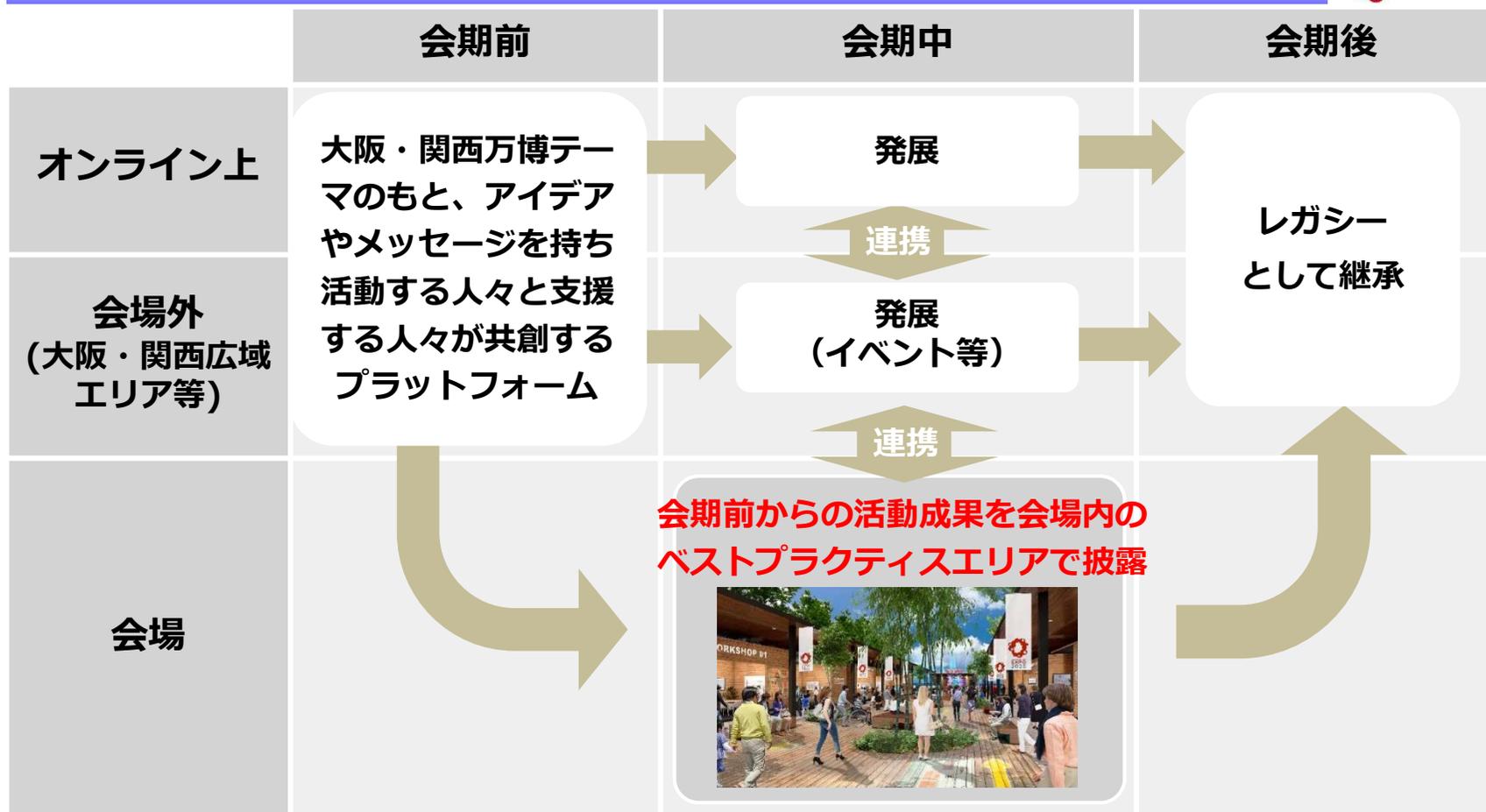


2020年
取組み
スタート

万博や社会課題解決を学ぶ
小・中学校での教育プログラムの
開発（大阪府教育庁との
連携）

2025年には、万博会場を世界中から優れた社会課題
解決事例が集積する**「未来共創の聖地」**に

「TEAM EXPO 2025」プログラム



TEAM EXPO 2025における連携方法



1. 共創パートナー（支援をする法人・団体）

TEAM
EXPO
2025



未来のために、
色々な人たちと
取組みを進めて
いきたいです！

(例) 広く共創チャレンジの未来社会における実装に向けて支援を実施するもの

- ・自治体などによる実証フィールドの提供
- ・ベンチャー支援組織等によるメンターの活用
- ・クラウドファンド等多様な資金調達
- ・メディアによるイベントやフォーラム

2. 共創チャレンジ（1つ1つのアクション）

TEAM
EXPO
2025



僕たちも万博に
参加することが
できるんだ！

(例)

- ・産官学が連携し、持続可能な地域づくりをめざす活動
- ・文化や芸術に関する創造的な活動
- ・企業（ベンチャー企業、中小企業、大企業）がSDGs達成への貢献の元に進める新規事業活動
- ・その他、環境エネルギー、健康医療、観光など様々なテーマにおける活動

私たちが考えた未来社会
への取組がチャレンジに
なるのね！



企業・団体の参加



パビリオン出展

(敷地渡し方式)

建ぺい率70%以下（原則）高さ制限12m以下程度

敷地面積約3,500㎡（9区画程度）

一部を共同館とする場合も想定

テーマ事業協賛

主催者が企画するテーマ事業に協賛社として参加

資金協賛

設備・サービス提供

未来社会ショーケース事業参加

企業・団体が持つ先端技術やシステムを用いて、
会場内での実証や実装を行う

先端技術・システムの提供・運用

「TEAM EXPO 2025」プログラム参加

会期前より2025年に向けてテーマの実現を
目指して共創する取組への参加及び協賛

テーマ実現に向けた活動の創出・支援
資金協賛

催事参加

主催者催事への協賛又は
参加催事の持ち込み

資金協賛

催事プログラムの持ち込み

営業参加

物販・飲食・サービスによる参加

会場内営業施設出店
ライセンスビジネス参加

その他

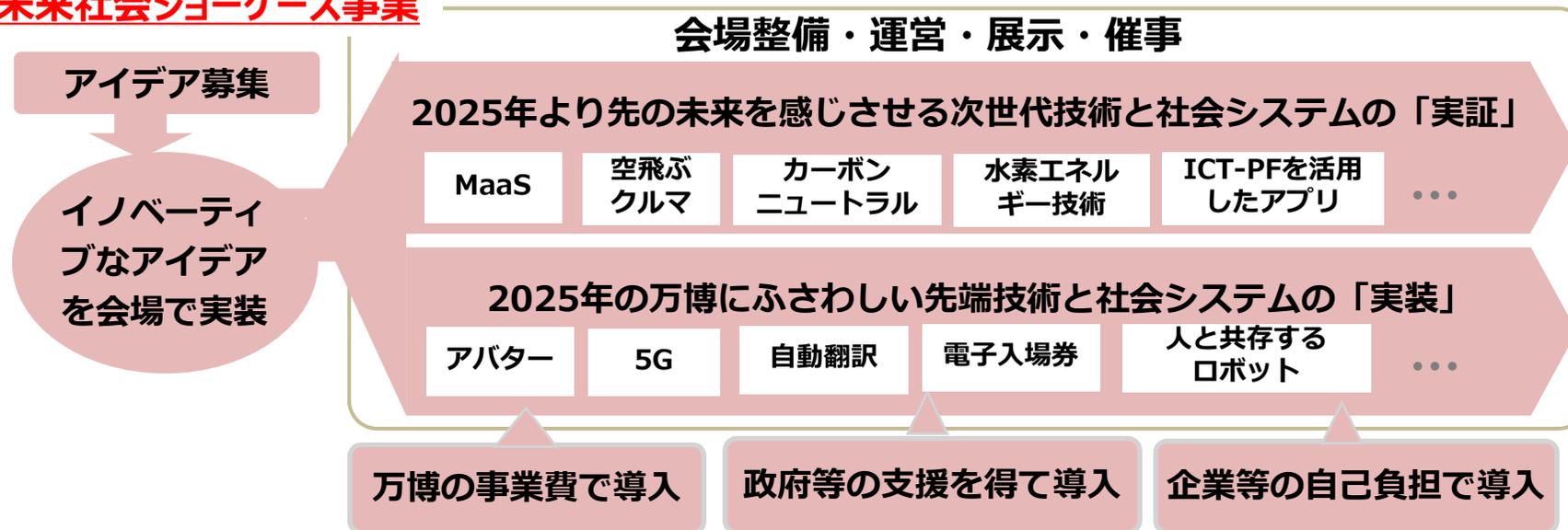
指定寄附
施設提供・貸与
広報参加
運営参加

特徴3 未来の技術と社会システムが見える万博



大阪・関西万博のコンセプトである「People's Living Lab（未来社会の実験場）」に基づき、カーボンニュートラル、デジタル技術、次世代モビリティなど、最先端の技術や社会システムを会場や運営、展示等に活用する未来社会ショーケース事業を行う。さらに、ARやVRなどの先端技術を活用して、会場を訪れることのできない人でも会場外から大阪・関西万博を体験することのできるバーチャル万博を実施する。

未来社会ショーケース事業



未来社会ショーケース事業の具体例



COVID-19を乗り越えた先の新時代の国家プロジェクトとして、2025年以降の未来を感じさせる次世代技術の実証と2025年にふさわしい先端技術の実装を目指す。

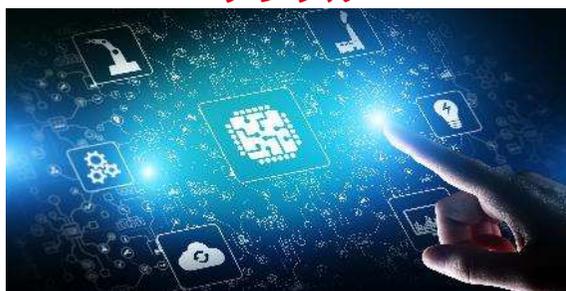
カーボンニュートラル



画像 : Adobe Stock

- カーボンニュートラル、エネルギーを最適化する技術、水素エネルギー技術のショーケースとしての導入

デジタル



画像 : Adobe Stock

- リアルとバーチャルを融合した未来のエンターテインメントの実現
- デジタル技術を活用した入場制度、来場者サービスの実施

モビリティ



- 次世代モビリティとしての利活用が期待される空飛ぶクルマにより来場者に新たな移動体験を提供

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～



「II. 基本的な考え方 (2) 「未来社会の実験場」の整備」から抜粋①

大阪・関西万博を、新たな技術やシステムを実証する場と位置付け、国内外の多様なプレイヤーによるイノベーションを促進しそれらを社会実装していく「People's Living Lab (未来社会の実験場)」とする。

AI やビッグデータ等の先端技術を活用し、社会の在り方を根本から変えるような都市設計の動きが国際的に急速に進展している中、日本においては実践の場が不足している。**万博会場という期間限定の「特別な街」を、様々な挑戦の場**とし、開催期間前から多様なプレイヤーによる共創を促すことでイノベーションの誘発や社会実装を推進する。AI、ビッグデータ等の先端技術を活用し、**待ち時間や言語の壁といった様々な制約から解放**された超スマート会場を目指すなど、会場で Society5.0 社会を体現する。具体的には、会場設計、環境・エネルギー、移動・モビリティ、情報通信・データ、会場内エンターテインメントといった分野を中心に実証プロジェクトを複数生み出し、会場内外に実装していく。例えば、革新的なイノベーションを用いた**カーボンニュートラルの実現**に資する技術の実証や、**自動走行ロボットを用いた配送サービス**等の会場運営での実証、陸、海、空における**最先端のモビリティ技術の導入**を通じ、空飛ぶクルマ等の新たな移動体験を提供する。こうした実証プロジェクトにおいて、障害要因となる規制があれば、大阪・関西万博を新たな技術及び新たなチャレンジを生み出す場とするために規制緩和等を積極的に進めていく。

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～



「II. 基本的な考え方 (2) 「未来社会の実験場」の整備」から抜粋②

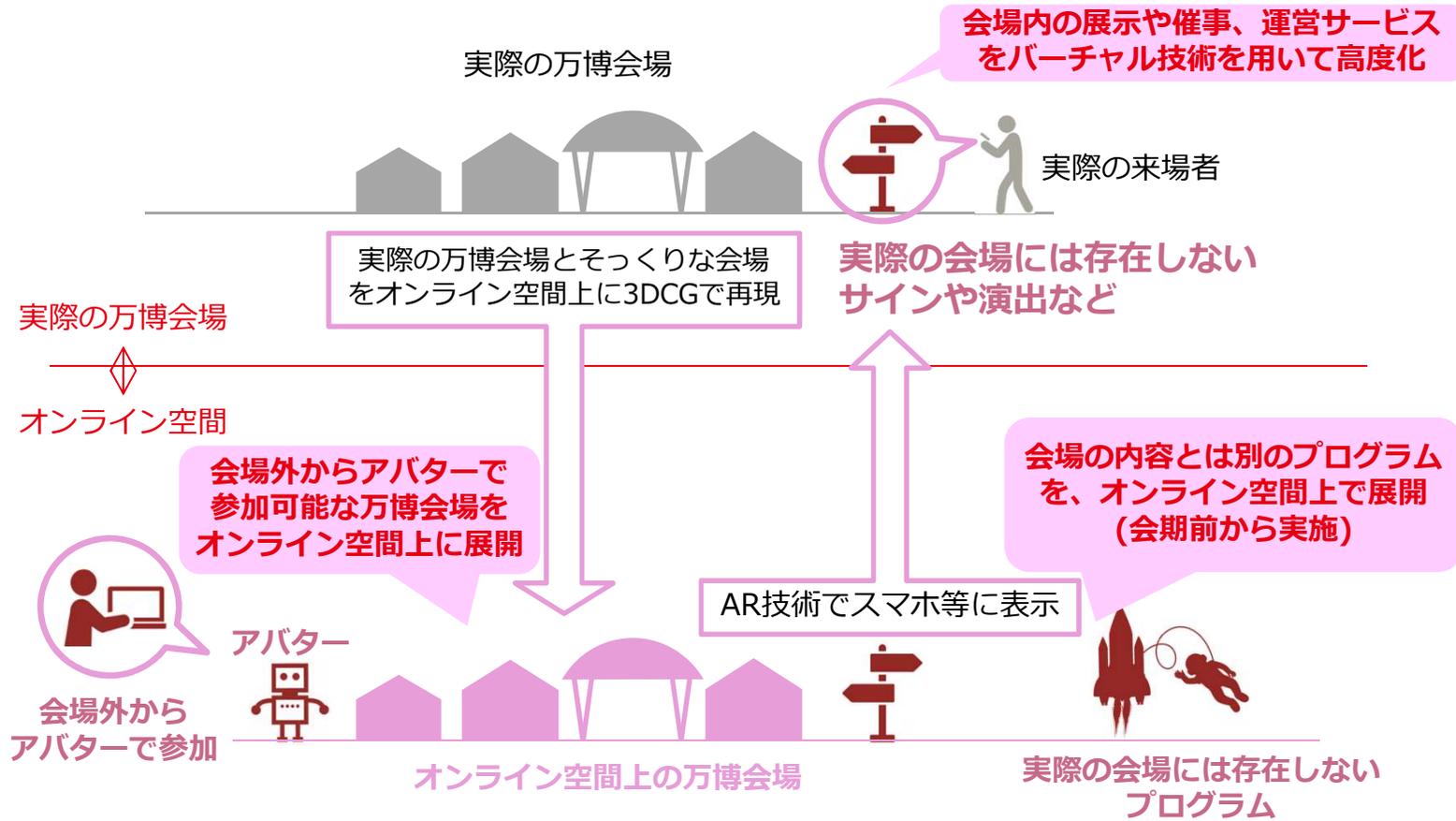
また、新たな技術等の実証の場としては、科学技術・イノベーション（AI、バイオテクノロジー、量子技術、マテリアル等）、宇宙、海洋などの分野における様々な官民プロジェクトと歩調を合わせた取組が求められる。例えば、**科学技術基本計画をはじめとした諸計画・構想と連携**し、政府及び民間が行う技術開発プロジェクトを含む多くの社会実装・実現に向けたプロジェクトの実証の場として、会場内外のスペース・地域などを活用する。**宇宙**については、衛星データを活用した革新的なサービスや月面等への人類の活動領域の拡大に向けた取組を含め、世界に向けて宇宙利用の未来像を示していく。四方を海に囲まれた海洋立国である日本が世界に誇る**海洋**科学技術（例えば、海洋環境の保全等の地球規模の課題の解決）、海洋産業におけるイノベーションの創出とSociety5.0の実現、津波などの海の脅威からの国民の安全安心の確保、人類のフロンティアである海洋の理解等に貢献する世界最先端の研究開発成果を積極的に発信する。また、**健康・医療**については、世界最高水準の医療の提供に資する医療分野の研究開発を推進するとともに、その成果を積極的に発信する。さらに、2030年や2050年を念頭に国等で実施されている**巨大実証プロジェクト**に関しては、**可能な限り、2025年段階での「現状と将来像」を会場内外で提示**する。例えば、5Gを含めた情報通信インフラを会場に整備し、チケットイング、決済及びAIによる高度な**多言語同時通訳**等のサービスを実装する。加えて、2030年頃の導入を目途に開発が進められる、5Gの次の世代の無線通信システムである**Beyond5Gの導入**に向けて、「Beyond5Greadyショーケース」として大規模な展示を行い、世界の人々が日本の最先端技術を体感できる機会を提供する。

バーチャル万博



	万博会場で行うプログラム (会期中実施)	万博会場とは別のプログラム (会期前から実施)
万博会場 (来場者向け)	会場内の展示や催事、運営 サービスをバーチャル技術を用いて高度化	
オンライン空間 (オンライン参加者向け)	会場外からアバターで 参加可能な万博会場を オンライン空間上に展開	会場の内容とは別の プログラムを オンライン空間上で展開

バーチャル万博 ～具体的なイメージ～

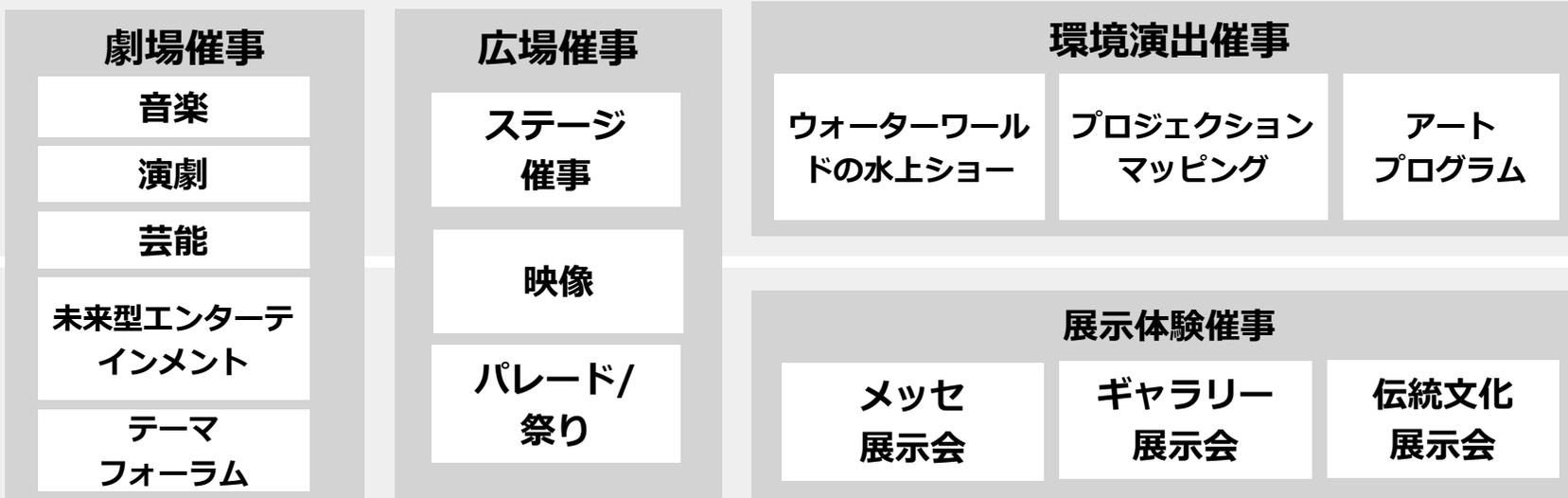


特徴4 本格的なエンターテインメントを楽しめる万博



ウォーターワールドの水上ショーや会場内の施設や通路を用いたプロジェクションマッピング、イベント広場や催事場など大小様々なステージで行う音楽や芸能などの催事、伝統芸能やポップカルチャーなどの展示体験催事、全国各地の祭りやパレードなど、にぎわいと感動にあふれた本格的なエンターテインメントが楽しめる万博を創出する。

主催者催事 主催者が協賛企業等と共に行う催事



参加催事 文化団体や自治体等の参加により行う催事

イベント・催事のイメージ



■ 屋外イベント広場のイメージ



■ ウォーターワールドで行う
環境演出催事のイメージ

～ 政府における大阪・関西万博の基本方針 ～

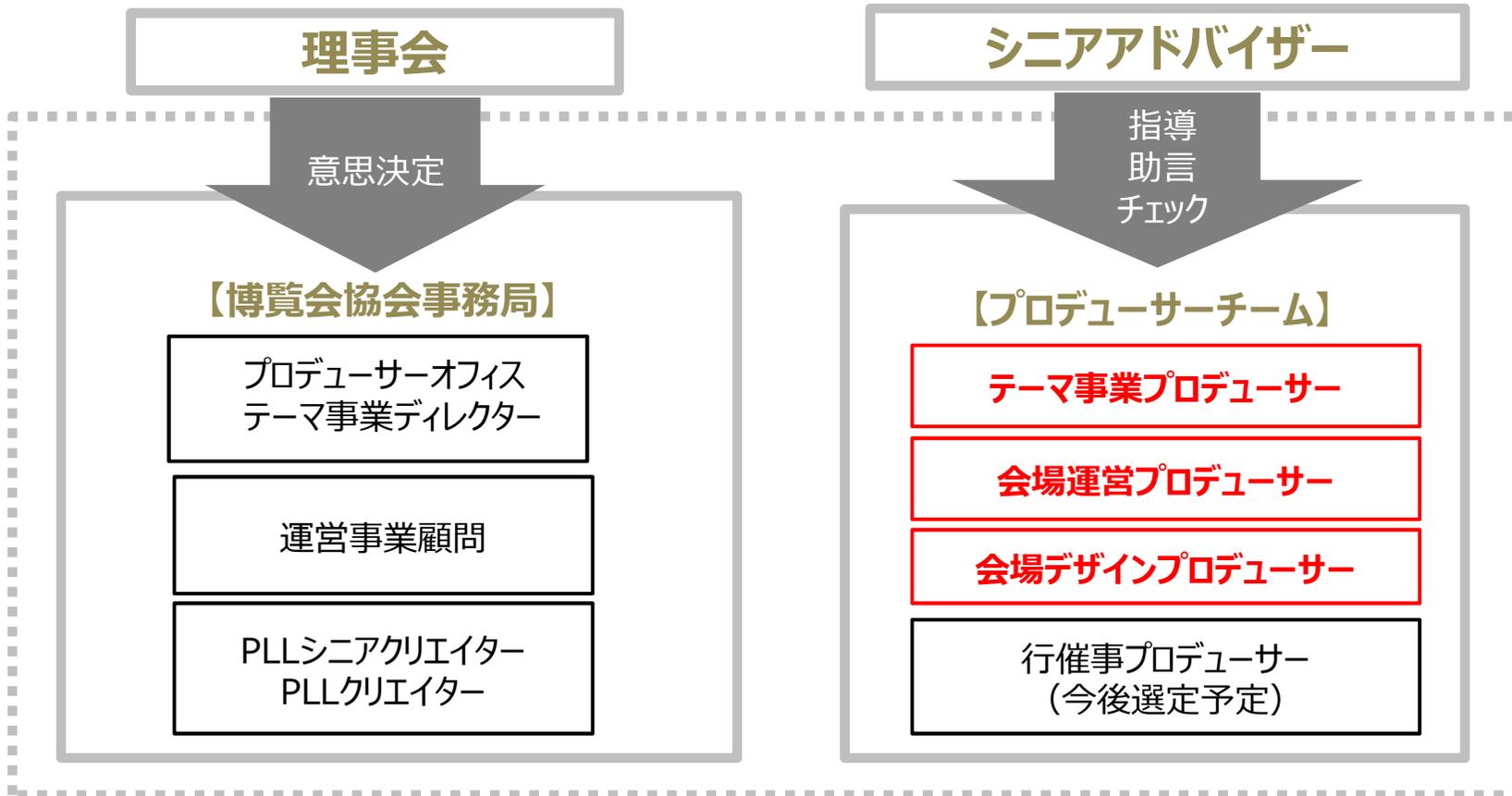


「II. 基本的な考え方 (8) 大阪・関西万博を契機とした多様な文化、価値観の重なる創出」 から抜粋

大阪・関西万博は、日本が「文化芸術立国」や「観光立国」、「農林水産物・食品輸出立国」としての魅力を世界に発信していく上で極めて重要な機会である。

日本の「和」の精神は、協調や調和を重んじ、多様な価値観を重ね合わせることで、新たな価値を生み出してきた。異なる価値観の融合は、持続可能な社会の実現に不可欠であり、大阪・関西万博の機会を、日本の文化や伝統の魅力を育み、発信し、継承するとともに国内外の多様な文化や価値観が交流しあい重なりあう、文化創造の場とする。また、日本には、伝統的な芸術や最先端技術を用いた各種アート・デザイン、ファッション、ポップカルチャー、和食・日本酒その他の食文化、祭り、伝統工芸品、和装や花、日本建築など、多岐にわたる文化が存在する。こうした多様な文化・歴史・伝統について、分野内、分野間の連携を図りながら、オンライン発信などのICT等の活用や、参加国と地方都市との連携などを通じて、世界に向けて積極的に発信する。

プロデューサー相関図



特徴5 快適、安全安心、持続可能性に取り組む万博



過剰な混雑が生じないように、電子チケットを活用した、入場事前予約制度やパビリオン予約制度等の導入を検討するなど、平準化に積極的取り組み、快適な万博体験の実現を目指す。さらに、感染症対策や防災対策、サイバーセキュリティ対策による安全安心の実現、サステナブルやインクルーシブなど持続可能性に配慮した運営などに取り組んでいく。

「平準化」への取り組み

入場できる期間や時間帯を限定した入場券の設定

入場事前予約制度

電子チケットの導入

パビリオン予約制度

「安心安全」への取り組み

感染症対策

防災対策

リスク対策

情報セキュリティ対策

「持続可能性」への取り組み

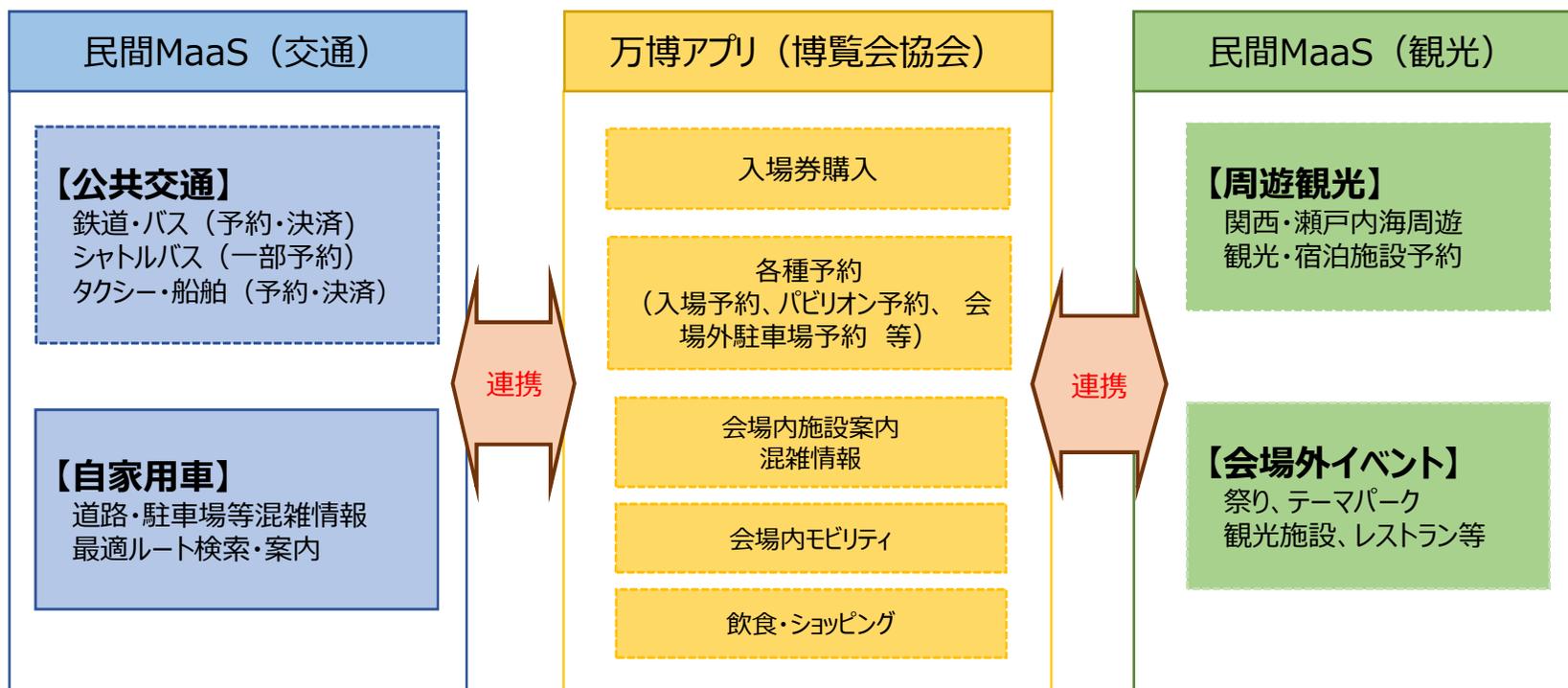
サステナブルな万博運営

インクルーシブな万博運営

(参考) 万博アプリで提供するサービスイメージ (例)



万博の会場情報（入場券購入、入場・パビリオン予約、施設案内、モビリティ予約等）を中心に、その前後の移動・観光（交通機関、渋滞情報、駐車場予約、周辺の観光情報等）情報を一体的に提供することで、ストレスなくスムーズな移動・サービスが可能となる。



大阪・関西万博の各分野での計画



催事計画

劇場催事、広場等での祭り・パレード、光と映像を駆使した環境演出催事、メッセやギャラリー等での展示体験催事や未来型のエンターテインメントを行う。

入場制度

開会2年程度前から入場券販売開始を検討する。平準化を目的とした入場券の設定や、入場事前予約制度、電子チケット、パビリオン予約制度の導入を検討する。

営業活動

飲食施設においてはSDGsの目標としても掲げられている食品ロスの削減や、多様な来場者に適応したサービス等の導入、混雑日対応も考慮した施設構成とする。

防災・セキュリティ

会場内での災害を未然に防止し、万一災害が発生した場合には消防活動や避難誘導を円滑に行い、被害を最小限に抑えるための措置を講じる。

情報通信

情報セキュリティを確保し、安全で安心な万博の運営を実現する。万博参加体験を通じて得た情報はビッグデータとして管理、社会に還元する。

輸送

想定来場者数2,820万人の円滑な来場を実現するために、鉄道・道路・空路・海路等の既存交通インフラを最大限活用したアクセス手段を計画する。

持続可能性に

配慮した運営

脱炭素社会の構築等にむけ、温室効果ガスの排出抑制、リサイクル・リユース・リサイクル(3R)などに取り組む。

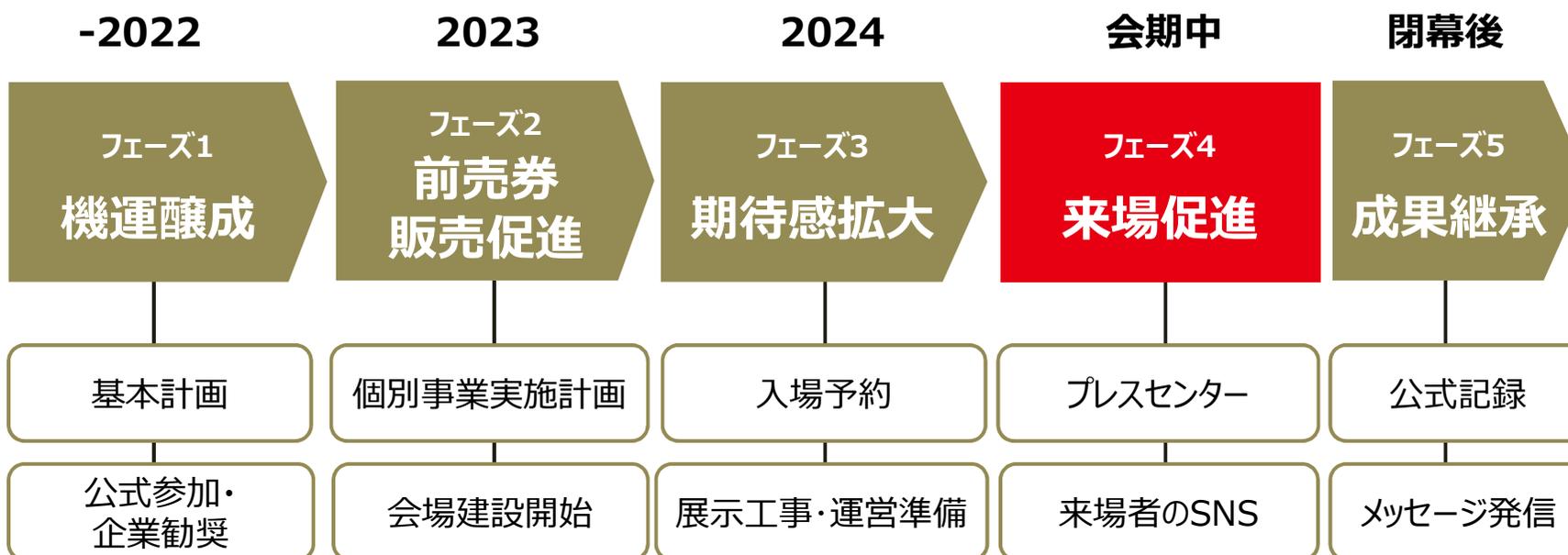
リスク管理

早期からリスクを洗い出し、顕在化を抑制する。ドバイ万博、東京2020オリンピック・パラリンピック等大規模イベントでの感染症対策を参考に必要な対策を講じる。

広報プロモーション



国内外の様々な人々、国・自治体・企業・団体等の多様なステークホルダーに、①大阪・関西万博への興味や関心を持ち、②参加意欲を高めてもらい、③万博会場への出展、来場へと繋げていき、そして、④会期前及び会期中に創出されたレガシーを伝え、後世に継承していくため実施していく。



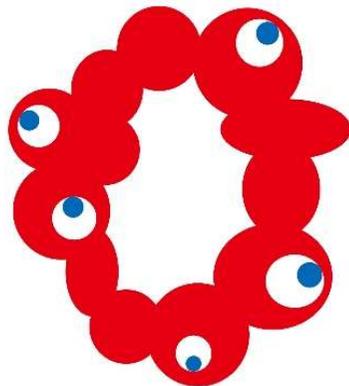
ロゴマークの決定



最優秀作品

グループ名：TEAM INARI(チーム イナリ)
作者(代表者)：シマダ タモツ
(アートディレクター/グラフィックデザイナー)

70年大阪万博
ロゴマーク



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025

コンセプト

踊っている。跳ねている。弾んでいる。だから生きている。大阪・関西万博。1970年のデザインエレメントをDNAとして宿したCELLたちが、2025年の夢洲でこれからの未来を共創する。

関西とも、大阪府ともとれるフォルムを囲んだメインシンボルだけでなく、CELLたちは、文字や数字を描きだし、キャラクターとしてコミュニケーションする。自由に。有機的に。発展的に。いのちの輝きを表現していく。

シニアアドバイザー



協会における重要課題や専門的事項について、専門知識や技術、経験等を有する方から助言を受けるため、シニアアドバイザーを設置

安藤 忠雄	(建築家)
池坊 専好	(華道家元池坊次期家元)
大崎 洋	(吉本興業ホールディングス株式会社代表取締役会長)
桂 文枝	(落語家)
河瀬 直美	(映画監督)
ロバート キャンベル	(国文学研究資料館長)
コシノ ジュンコ	(デザイナー)
五神 真	(東京大学総長)
ウスビ・サコ	(京都精華大学学長)
千 宗室	(茶道裏千家家元)
西尾 章治郎	(大阪大学総長)
宮田 亮平	(文化庁長官)
山極 壽一	(前京都大学総長)
山崎 直子	(宇宙飛行士)
吉田 憲司	(国立民族学博物館長)

※五十音順・敬称略

アンバサダー



“大阪・関西万博の顔”として万博の魅力を伝える「2025年日本国際博覧会協会アンバサダー」を発表

コブクロ (ミュージシャン)



佐渡 裕 (指揮者)



ダウNTOWN (タレント)



**宝塚歌劇団
(エンターテインメント)**



©宝塚歌劇団

松本 幸四郎 (歌舞伎役者)



**山中 伸弥 (京都大学
iPS細胞研究所所長・教授)**



※五十音順・敬称略

これまでの取組



4月 9月 11/23 1月末 4月 10月 12月

万博立候補及び開催申請について閣議了解
立候補申請文書（ビッド・ドシエ）をBIEへ提出

開催国決定

一般社団法人
2025年日本国際博覧会協会設立

万博特措法の成立
公益社団法人移行
シニアアドバイザーの設置

登録申請書をBIEへ提出 ※各国へ示す実行計画
BIEへの登録申請に係る閣議決定

アンバサダーの発表
プロデューサーの選定

ロゴマークの決定

博覧会推進本部が発足（国）

BIE総会（登録申請書の承認）

基本方針を閣議決定（国）

基本計画策定・公表（協会）

※万博開催に必要な事業の方針や
考え方をまとめた協会のマスタープラン

ドバイ博（登録博）



1年延期

各国への参加招請活動

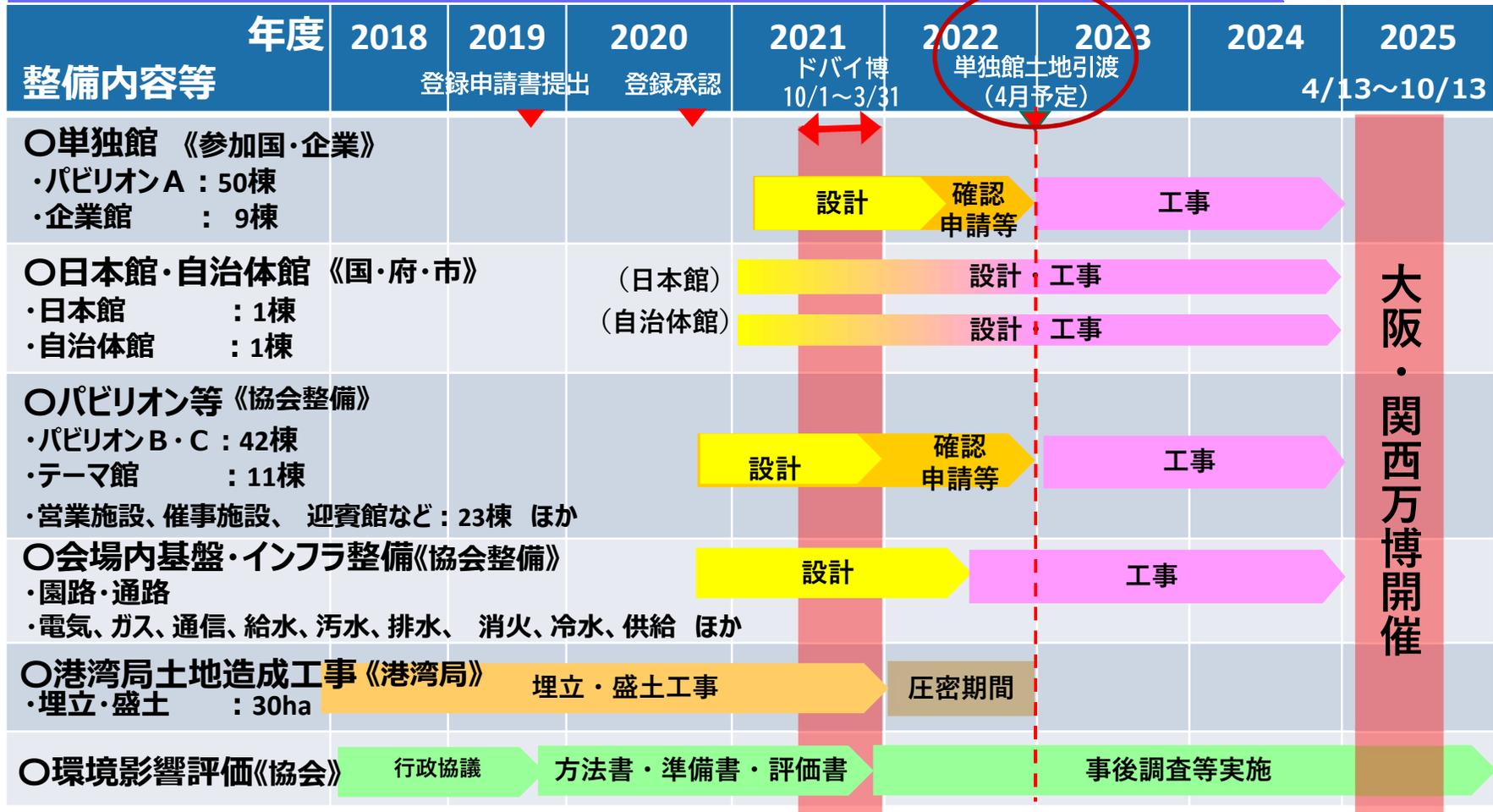
今後の主なスケジュール



協会は、基本計画をもとに、各分野毎に詳細な計画を1～2年かけて作るフェーズへ入っていく。



会場整備スケジュール（想定）



2025年大阪・関西万博での共創①



会場出展など

企業パビリオンへの出展のほか、テーマ事業への協賛や営業参加、催事参加など、多様な参加メニューを用意
営業参加では、万博会場にメッセ的な場所を作ることや、トレーラーなどを用いた簡易な出店方法などを検討中

万博会場に訪れる
2,800万人の活動を
ビッグデータとして収集し、
医療やモノづくりなどへの
活用が期待できる

未来社会ショーケース事業

会場での先端技術の実証実験や、社会実装される新技術への参加

未来社会の実験場

清掃・ごみ運搬・
物流・モビリティでの
ロボット活用



空飛ぶ車

5Gによる次世代通信、
会場内外のMaaSの連携

2025年大阪・関西万博での共創②



TEAM EXPO 2025

- ・共創パートナー
- ・共創チャレンジ

SDGsの達成やSociety5.0
の実現に向けた活動など



SDGsへの取組を実現するための行動を、
万博を通じて世界に向けて発信！

防災・減災に関する取組

感染症対策

子どもや高齢者との交流イベント

環境・エネルギー分野
などの新事業・新産業
創出を目指す活動

技術で少子高齢化や過疎化等の社会
課題を解決する活動
(遠隔操作ロボットや自動走行車など)

過去のイベントからの継承



国家事業である万博は、
参加各国から首脳や企業VIP等が訪れることから、
海外各国・企業とのつながりを強化する場にも



**万博を
世界・日本・地域の
次の時代を
つくるきっかけに**

2025年日本国際博覧会がめざす姿



- ◆「モノを見せる場」から「**コトを感じる場**」に、
「観る」万博から「**参画し、共に創る**」万博に
- ◆コロナウイルス感染症の地球規模の拡大という
未曾有の局面を経験、世界の国々と
「いのち」を考え、「**社会**」を検証し、**提案する機会**に

**「いのち輝く未来社会」の実現に向け、
世の中を変える動きを
創り出すような新しい万博に！**



2025年大阪・関西万博の成功を！

